

札幌市立真駒内公園小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

本校では、毎年3年生が校区内の町内会行事「ゆきあかりキャンドルロード」に参加している。まちの発展を願う地域の方々が行う、雪国の特性を生かした営みに目を向け、自分たちでできることを考え、実行していくことがねらいである。

町内会では、高齢化が進んできて、長年行われてきた地域行事「ゆきあかりキャンドルロード」への参加者が減ってきており、何とか活性化したいという願いがある。さらに本校では開校以来、他人を思いやる気もち、自分を大切にできる心などの「人権教育」に取り組んできた。そこで、「雪」の活動を通して地域の方と触れ合い、地域への愛着をもち、人や地域を大切にできる心を育てていきたいという願いが合致し、開校以来3年生がイベントを盛り上げるために、地域の方と一緒にスノーキャンドルづくりを体験している。さらに、その後もこのイベントを活性化するために、自分たちでどのような活動ができるか知恵を出し合い、「雪像づくり」や「川柳の掲示」など、このイベントを盛り上げている。

2 取組内容

(1) 「ゆきあかりキャンドルロード」の準備をしよう

① 「ゆきあかりキャンドルロード」盛り上げよう

「ゆきあかりキャンドルロード」を盛り上げるために、自分たちは何ができるか知恵を出し合うことからスタートした。当日多くの人に参加してもらうために、まず子どもは「PRグループ」「ポスターグループ」「チラシグループ」「看板グループ」の4つのグループに分かれて活動を行った。子どもは仲間と関わり合いながら、始業式や昼の校内放送で全校児童に呼びかけたり、廊下にポスターを貼ったり、各学級にチラシを配付したり、さらに、玄関には看板も設置したりした。



② 雪像づくり

さらに、当日に向けて2回、会場に出向き子どもは雪像づくりを行った。最初に地域の方から感謝の言葉をいただき、子どものやる気が高まった中で、グループ毎に雪像づくりが始まった。今年のテーマは「雪だるま」として、グループでどのような「雪だるま」を作るかイメージを広めた。1日目は、町内会の方が積んでくれた雪山を削ったり、更に積み上げたりしながら、雪だるまを制作した。さらに2日目には、水を使ってつるつるにしたり、色を付けたりしながら自分たちの思いがこもったカラフルな雪だるまが出来上がり、「雪だるま」に名前を付けて、他のグループの雪像を見て交流した。

(2) 「ゆきあかりキャンドルロード」に参加しよう

① スノーキャンドルづくり

活動の前に、地域の方にスノーキャンドル作りを教わった子どもは、雪像づくりが終わったグループから作りを始めた。最初は、崩れたり、穴が小さすぎたりして苦労をしていたが、水を使って、雪を固めて作り続けていくうちに、コツを覚え、上達した。子どもが作っている横で、地域の方もスノーキャンドルづくりを行い、互いに声をかけ合って作る様子も見られた。また、子ども同士で作成したキャンドルを見せ合い、途中、色水を使ったキャンドルを作った子どもが現れると、工夫の幅が広がっていった。



② 点灯後のキャンドルロード

夕方 16 時半頃、集まった子どもからスノーキャンドルに点灯を始めた。スノーキャンドルの横には、子どもが作った五七五の川柳があった。保護者は我が子の川柳を読み、記念写真を撮る様子が多々見られた。点灯時は、まだ明るい時間であったが、だんだん暗くなり、キャンドルの灯りがゆらめくと、とても幻想的な雰囲気包まれた。チームで工夫した宣伝の効果もあってか、多くの子ども、保護者、地域の方もたくさん訪れた。

3 成果と課題

(1) 成果

子どもは地域の方と一緒に活動することで、人と触れ合うよさを実感し、改めて地域の大切さを感じた。子どもがつくった雪像、スノーキャンドルを見た地域の方や保護者、他の学年の友達が「すばらしい」と言ってくれたことを直接聞いて達成感と充足感を得た。



さらに、学校の代表として地域の行事に参加し、自分たちの手で地域の行事を作り、盛り上げた意識も強く感じた。地域の方からも、多くの子どもの参加に対して、感謝の言葉があり、子どもは自分たちの活動に自信をもち、自尊感情を高めることができた。また、来年は「自分たちの番」という思いを強くもって、地域の活動に参加している 2 年生も見られた。金曜日にもかかわらず、本校の子ども、地域の方の参加者数が昨年より増えた。

このように、本校の実践している「人権教育」と「雪」の活動を組み合わせて、多くの地域の方と交流できたことが大きな成果である。また、子どもと触れ合える貴重な地域行事を継続したいと願っている地域の方の熱い思いも強く感じた。

(2) 課題

雪像をつくる公園が、学校から少し離れているため、安全確保や道具を運搬する人員、車両の確保が必要である。また、点灯時刻が夜であるので、保護者同伴が原則であるが家庭の事情によって参加できずに、点灯したスノーキャンドルを見られないのを残念がる子どもがいた。さらに外での活動のために、天候や気温に左右され、児童の体調管理も重要である。

